

## それぞれの思い

関係者に聞く

### Takashi Saito

旧上沼高校 齋藤隆校長



私自身、登米学区は初めてで当初は不安がないわけではありませんでした。しかし、それはすぐに取り越し苦労だと気づきました。生徒や同窓会、地域と本当に良い人たちが集まり、その三つと教師の調和が取れた本当に良い学校でした。互いを思いやれる最高の関係でした。この伝統は新しい学校に引き継がれると確信しています。

### Kiyotaka Oikawa

上沼高校同窓会 及川清孝会長



在校当時、生徒の大半は農家の長男でした。中田に住む農家の長男は、農高(愛称)を目指すのが当たり前でした。農高のカラーはリーダーシップを取れる人間が多いこと。卒業後は、農業はもちろん、地域活動の中心となって活躍する人たちが多くいました。農業が厳しいこの時代、牽引役となる人材が、数多く輩出されることを期待します。

### Takahiro Miura

旧米谷工業高校 三浦孝洋校長



米谷工高の生徒は、将来への目標や展望が入学時からしっかりしていました。職業系の学校なので、自分が何になるのか目的意識を持って入学する生徒たちばかりでした。校訓は「強く、正しく、明るく」。この校訓を忘れず、新しい学校でも活躍し、すばらしい社会人になることを期待しています。

### Kiichi Ishikawa

米谷工業高校同窓会 石川喜一会長



私は自動車科で学び、卒業後自動車メーカーに就職しました。在学していた頃、国内でも自動車科を設置していた工業高校は数えるほどしかなかったため、県内外を問わず、多くの人がその門を叩きました。結果的に閉科となってしまいましたが、総合産業高校も、そこでしか得られないものを伝えられる学校であってほしいです。

### Takenori Gotou

旧米山高校 後藤武徳校長



米高は、合併前の米山町の農業を中心としたまちづくりの中にあり、農業の発展と共にまちも学校も成長してきたと認識しています。地域と相思相愛で、どちらかが欠けていたら、今の姿はありません。生徒たちには不易流行(変えてはいけないものと変えるもの)の精神を忘れず、未来のまちづくりに貢献できるよう成長してほしいです。

### Tadashi Yanbe

米山高校同窓会 山家忠会長



私が高校2年生に進級する際、分校から米山農高へと移行しました。現在の総合産業高校の2年生と同じような状況でした。「新しい学校を盛り上げよう」と私たち生徒はもちろん、先生や地域の皆さんと共にいろんなことに取り組んだことを覚えています。しかし、中心になるのは生徒自身。自分たちの学校は自分たちが盛り上げないと。



### 米谷工業高等学校

校訓：強く 正しく 明るく



### 上沼高等学校

校訓：自律 勤勉 調和



### 米山高等学校

校訓：敬虔 誠実 精励 調和

年次	内容
昭和23年	宮城県登米高等学校校定時制課程米谷分校開設式挙行。米谷、浅水、米川三町村組合立宮城県米谷高等学校設立認可。
昭和36年	宮城県米谷工業高等学校(全日)制、機械科、電気科、自動車科)設立認可。
昭和37年	米谷工業高校(女子)認可。
昭和47年	工業計測科(女子)認可。
平成元年	機械科を電子機械科、工業計測科を情報電子科に学科転換。
平成15年	電子機械科、電子科、情報電子科を学科改編。
平成25年	自動車科閉科。
米谷工業高等学校	米谷工業高等学校(女子)認可。
昭和26年	宮城県上沼農業高等学校米山分校として開設。農業科(男)、家庭専修科(女)を募集。
昭和35年	宮城県上沼農業高等学校米山町分校と改称。農業科を募集。
昭和41年	宮城県上沼農業高等学校米山分校と改称。生活科を設置。
昭和42年	全日制課程に移行。
昭和45年	宮城県米山農業高等学校の新設を公示。
昭和56年	農業科1学級、生活科1学級を普通科2学級に転科。
昭和58年	宮城県米山高等学校と改称。
昭和62年	農業科1学級を産業技術科1学級に転科。
平成18年	産業技術科を園芸ビジネス科へ転科。
上沼高等学校	上沼村立宮城県上沼実業学校として開設。
大正15年	宮城県上沼実業学校と改称。
昭和18年	宮城県上沼農業高等学校と改称。
昭和23年	定時制課程併設(中心校は石森分校)。
昭和26年	定時制課程 米山分校場開設。
昭和31年	定時制課程石森分校廃止。
昭和38年	農業土木科を設置。
昭和45年	米山分校独立昇格し、宮城県米山農業高等学校となる。
昭和62年	生活科を生活科学科に転科。
平成5年	宮城県上沼高等学校と改称。農業科、環境土木科、普通科に学科改編。
平成18年	農業技術科、普通科に学科改編。
平成27年3月31日	3校とも閉校。

平成27年3月31日、市内の歴史と伝統ある3校はその歴史に幕を下ろした。そして、平成27年4月8日。その三つの高校は「登米総合産業高校」となり、新たな歴史を刻み始めた。

# 温故 創新

米谷工高、上沼高、米山高の3校と登米高の商業科が再編、統合するため、前述の3校が27年3月31日、長い歴史に幕を下ろした。米谷工高は、昭和23年に県立登米高等学校定時制課程米谷分校として開設。昭和36年に宮城県米谷工業高等学校となった。学区唯一の工業高である米

谷工高は、あいさつや服装、身だしなみなど、基本的な生活習慣の指導に重点を置いてきた。卒業後、生産現場で即戦力となるためには、教養や技能はもちろんのこと、社会人として当たり前の素養を身につけるべきだと考えたからだ。これらの教育活動が地域の企業から評価され、毎年100%の進路を達成してきた。上沼高は、3校の中で最も歴史が古く、大正15年に上沼村立宮城県上沼実業学校として開設。昭和23年には宮城県上沼農業高等学校となり、この地域の基幹産業である農業

を支え、農業近代化に対応し現代農業に即応する人材を多く輩出してきた。特に地元中田町では農家の長男は農高進学と言われるほどであった。しかし、平成5年に世の中の構造変化に伴い、農業高校から普通科を併設した総合高校として生まれ変わり、今日を迎えた。米山高は昭和26年に宮城県上沼農業高等学校米山分校として開設。昭和45年に宮城県米山農業高等学校となった。米山高も上沼高同様、地域の農業を支え、変化する農業情勢に対応できる人材を多く

輩出。当時から米山町は、農業に重点を置いたまちづくりを進めてきた。町と学校、地域が三位一体となったまちづくりは、農業のまち「米山町」のイメージを確立した。学校がなくなるということは悲しいこと。在校生や卒業生はもちろん、そこに関わってきた地域の人たちにとって本当にうれしいことだとも思う。しかし、学校はなくなっても、築いてきた歴史や伝統はなくなることはない。米谷工62年、上沼高89年、米山高44年の歴史と伝統は、新しい学び舎の登米総合産業高校に受け継がれる。